週刊 磐城之實業

毎週日曜日發行

發行兼編輯 印刷人 大和田典

福島縣平町古殿治町九十二 發行所 磐城之實業社 電話五五五番

定價 一部金五錢郵税共 半年分一圓廿錢
廣告料 一行五十錢 指定場所 増十錢

印刷所 平町南町五十番地 大和田印刷所 電話四六番

▲▲▲▲▲▲▲▲鑛業法違犯の採掘

問題は小田か古河か

平當局は嚴然たる態度をとれ

平水道に對して好間村地内の鑛業權者が違犯行爲を公然敢行し居ることをば一部識者間には問題視され居りしが偶然去月二十九日報知新聞福島版に然も三段抜き一號活字を以て「平町水道貯水池の眞下へ炭坑を掘る監督局で近く實地檢證」なる標題にて左の記事を掲げたのである

石城郡好間村所在平町水道貯水池眞下を某炭坑が採掘してゐること判明したので大いに驚き仙臺鑛山監督局へその旨内申すると共に善後策講究中であるが仙台監督局では近く技師を特派して實地檢證の上中止方を嚴命する模様で成行を重大されてゐるこの事件を口實として二名の平町會議員がその炭坑主を脅迫し多大な金錢を要求したとの奇怪な噂があるのでその筋でも内偵を開始した

と報じてゐる然るに三十日發行の夕刊新いわき紙上に左記の記事あり

石城郡好間村小田吉次氏經營の隅田川坑が平水道上の原貯水池下を採掘せるやにて平町議某々二名が小田氏に或種の不正な交渉を試みしもの丶如き噂あり事實とすれば町の大問題であると唱ひられてゐるが聞く處によれば右貯水池關係鑛區は古河炭礦に屬するらしく從つて小田氏に對する或種の交渉は余りに根據が薄弱で或は目下内訌中の民政黨内に於ける手段的宣傳である様にも云はれてゐる何れにしても平町にとつて重大な問題なので關係官署の調査を請ふ模様であるから近く眞相が解るであらうと

以上兩紙の報道記事を對照する時何れが眞なるかを判斷に苦むものであるがいわきの記事は其の大畧を肯定し得るものとすれども或は採掘鑛區は小田には非らざるかとは一般の噂らしい町當局か果して嚴密なる調査をなし得るや否やが震源地が登記組なりとすればそれたけ見物である。

整理進渉 内容良好

四倉町株式會社四倉銀行は昭和三年十月一日支拂制限をなして整理に着手したのであるが其當時は預金六十五萬を有し貸附金七十一萬に達してあつたものを現在では預金三萬六千二百九十六圓此入員百三十六名は昭和六年十二月より向ふ五ヶ年間無利子年賦償還を全部承諾したのである貸付金は二十三萬七千圓不動産有價證券六萬圓を現存しあるに對し前記の預金と借入金四萬八千八百圓中三萬圓は中商工資金借入金で既に二萬は償却し殘額一萬圓は明年五月三十一日完濟するの確實なる方式あるのみならず殘余の三萬八千八百圓に對しては見返擔保付なるが故に尠少の苦痛なく完全なる整理の出來得べきことは斷じて疑ふの余地なし資本金五十五萬圓に拂込は二十一萬二千五百圓なる處より見ても更生は敢て難事ではない行内には吉田頭取を初め新妻、佐藤、吉田、木村、野口の諸氏誠實に努力奮闘してゐることは他の睡眠銀行と其の撰を異にして斯くなればこそ此の進渉するに至つたことであらう。

事業と人物欄

實業界の健闘者

小港平次郎氏

◇

◎◎四倉町に於ける富の第一人◎者にして資産三十萬を降らぬと評されて居る氏は肥料商を營み質直叮寧を店是として薄利多賣主義に顧客の附近農家から絶對の信用を博してゐるのである。

◇　◇

業界に商覇を握り機敏なる營業振りを見せつゝ奮闘し居る氏は信望厚きものあつて町會議員を二期も勤め現に其の中堅人物で將來の町長に擬せられ行く〳〵は縣會議員として必ずや大衆は氏をして其の椅子に幾多の地方問題をして解決せしめるの腕手を認めるの時期や必ず有ることゝ信じて疑はないのであらう。

◇　◇

嘗つて東京に開催されし全國肥料商同業大會の席上に於て雄辯を揮つて斯業の農村振興に密接なる重大關係あることを然も實際研究の結果を發表し斷じてテーブル上の學殖知識で無い處から返つて獨特の此の業績の偉大なるを讃嘆され直ちに全國的に[illegible]に小港なる人物あるの名聲を博したので問屋筋の信任は愈々厚きを加へ來つたのも偶然ではない。

◇　◇

夫人おせんさんは美人であり學問あり夫君の今日の地位を得しめた賢婦人の誉高く平次郎氏の快活にして常に明るきは内助の効や決して沒すべきことは出來ない夫婦揃つて善良なる家庭と云ふべきである。

公開論壇

◆十二字詰百行以内◆文体隨意◆題目自由◆人身攻撃不可◆匿名可◆投書歡迎

東部電力と武田營業所長

平一町民投

磐城縣風會主体となつて東部電力に對する値下げ運動を開始しようとして居るが勿論需要家は此の不景氣の際だから斯くなることを念願しない譯ではないが縣下には二十五の電氣會社があつて電燈料の平均が十燭七十四錢十六燭が八十五錢七厘で東北六縣中では中位であるが南會津郡檜枝水電の十燭一圓十錢十六燭一圓五十錢と云ふ破天荒の高い處もあるし、それかと云つて大沼郡八田電燈所の十燭二十錢十六燭三十錢なる是れは又驚くべきお安いのもあつて高いのも安いのも全國第一の料金とあるが東部電などの平町料金は我慢か出來ないものでもない其れに武田營業所長の八面玲瓏の手腕家が再任してからは需要家に對する親切味と公平振りを發揮して着々改善に努力して居ることを左に書いて見ると

◇休燈料の月額十五錢を十錢に値下

◇廢燈料一燈に付一圓を六十錢に値下

◇休燈手數料一燈に付き十錢を撤廢

◇低燭力變更手數料一燈に付十錢を撤廢

◇電球引換料の値下

◇シーリング以下の新設工料一燈七十錢たりしを廿錢に

◇全增設六十錢を廿錢に

◇町村又は公共團体より貧困者として扶助を受けて居る者に對しては一世帶十燭光を一灯無料供給

等々と數へ來れば敢て我慢の出來ない譯ではあるまい

青眼白眼

石城民政黨内の騒ぎは當分融合しそうもない、今度新聞紙上に現れた平水道直下採掘問題は見様に依つては不實登記の人氣回復暴露戰術とも解譯すればすれる節も無いではないから「火蓋は愈々切らる戰い正に酣なり矢彈はつき倒れる迄も決心は悲想なり」など油をかけたり詳したりして面白くなつて來わい◎同じ民政黨でも石城郡よりはお隣りの双葉都の方が人物が澤山ある曰く氏家、小松、釘本山田等々數へられるに石城は如何大平の睦さんや鷲の淸ちやん美三さんや比佐代議士なとでは双葉に對比して遜色なきや否や此處に滿藏さんの男を賣出す所以なしとせんや敢て野崎君に提灯を持つ譯ではなく實際を云ふのたが君たるもの悪い氣持はすまいヲゴリ給ひ。

冷墨 熱筆

財界の大暴風に昭和三年十月一日余義なく支拂制限を發表して憂霧心に鎖し轉た世相の無常を歎じたる四倉銀行頭取吉田保之助氏は私財十萬圓を直ちに提供し爾來着實なる整理に寧日なく其の至誠は天に達したるもの丶如く四倉町を中心に附近村落住民は氏の努力と一錢たりとも私し居らざりし徳行を讃し財界稀に見るその清廉純潔なる恰も泥中の芙蓉の如しとなし今や寄々此の多大なる勞苦を稿ふべき催しありと聞くだに痛快事たり

成功せんとする四倉漁港
委員の運動と其の内容

工費五十萬五ヶ年繼續事業の豫算を以て數年來猛運動を續け來りし四倉漁港は早晩認可の成功を見んとしてゐることは地方發展として快事たるこさで地元町民は工費寄附額に就て今や改めて協議をせねばならない豫算の概略は國庫及縣補助は各二十五萬圓宛であるが縣當局さしては當節柄地元の寄附十萬圓位を提供するに非らざれは豫算編成し縣會に提案出來ぬ氣乘ねある模樣なるも四倉町としては五萬位にしたく此處お互への懸引ある場面らしい而して町としては從來此の運動に一萬數千圓を要し常に委員五名を撰任し盡いたものであつたが本年度よりは議員全員委員制度を採り運動實費辨償を天引四割を減じ在町中の運動は無報酬と規定して誠意奮鬪して一日も早き達成を期すべしとなして過去の情實暗密費用の弊害を廢滅したとのことである

校醫の改善

小、中學の生徒が第二の國民の中堅をなさねばならぬ者であると云ふ事は今更改めて言ふ必要はないのであるが夫れに就て學校醫なる者は囑託制で形式的の「トラホーム」檢査體格檢査以外に殆んど何事もなさぬのである個々の學生に就て肉體的には勿論精神的にも最近の學術を應用して調査研究すべき事項が幾多あるかわからない之等はやがて教育の指針とならなければならない今日翕然として同情の集まり居れる平町に於ける欠食兒童に對し其家庭を訪問し兒童及家族の保健狀態を診察調査等をなすは仁術の名にそむかざるべし切に校醫以外一般開業醫の奉仕を望むものである。

恐るべき炭坑の暴狀
民衆の公敵横暴なる鑛業者

鑛業法を無視し無殘なること豺狼の如き鑛業者が川床を陷沒せしめて耕地水田の用水をして涸渇せしめ内郷村民をして傷心の種たらしむるのみならずやがては良田變じて不毛の地たらしむるも敢て顧みざるの暴狀の其の裏面には會社幹部の四五名と斥先請負者と結托して盜掘十余萬圓を不當の配分をなし暴横跋扈至らざるなき彼等に對しては相當手段を講ずべきもので鑛業法

第十一條　鐵道、軌道、道路、運河、河湖、沼池、堤塘、社寺境内地、墓地公園地其他ノ營造物及建物表地下トモ其周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官聽ノ許可所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレバ鑛業ヲ爲スコトヲ得ス

とあるに依つても亂暴さが沙汰の限りなる事は判明することとなるべく此の條文に違犯したる無道たる平水道下の採掘事件は方別項記載の如く好間村にも突發しあるのであるが是等は左記法規に基き直ちに判明することで實際を圖面に見るべきである即ち礦業法施行細則

第四十七條　坑内實測圖ハ平面圖及截面圖ノ二種トシ少クトモ毎月末ニ於ケル掘進ノ狀況ヲ測定シ翌月中ニハ調製スベシ坑内實測圖ノ複本ハ石炭坑ニ在リテハ毎年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各八月末日及二月末日迄ニ其他ニ在リテハ毎年十二月末日迄ノ分ヲ二月末日迄ニ差出スベシ但シ礦山ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ礦山監督署長ハ何時ニテモ坑内實測圖ノ複本ノ提出ヲ命ジ又ハ其提出期若ハ提出回數ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ差出シタル前記ノ坑内實測圖複本ハ請求ニ依リ之ヲ下付ス

内郷、好間の兩村民有志は仙台礦山監督局へ其の圖面の下付を請求し若し不正の圖面提出し在る時に於てはこれこそ斷然たる態度に出すべきである。

業界消息

鍋嘉支店

平町二丁目鍋嘉支店星野久八氏は和洋酒、味噌、醬油等を取扱つてゐるが若松市鍋嘉本店、東京丸玉商店、若松林合名會社、大日本麥酒會社、仙臺[illegible]野商店等[illegible]り三十日乃至九十日内外勘定で仕入れ同町及近在の同業者炭礦方面に得意を有し卸六分小賣四分の割合で現金月末六十日乃至九十日内外勘定で販賣し支拂回收共普通に行はれてゐる氏は若松の人で鍋嘉酒店より分家し大正二年現所に來住し鍋嘉本店より後援を受け酒類の卸小賣業を開始し漸次稍々積極的經營振を以て進展し大正十五年より同町五十嵐小平氏、矢島廉助氏等と共同にて大日本麥酒會社の特約店を引受け氏が名義人となつたが氏は實家星野嘉右衞門氏方面より應援を受けてゐる目下店員三名を使用し年商七萬圓内外を計上し業況常態である。

丸龜吳服店

平町三丁目丸龜中野吳服店は元現代表社員の實父中野勇吉氏の個人經營であつたものを大正十年稅金關係から一族店員等出資の合名會社に組織を變更し更に昭和三年三月現組織合資會社に改めたもので吳服太物類、和洋雜貨、化粧品類、洋服地、裝飾品類の卸小賣を爲す外明治生命、帝國海上な明治火災、第一徴兵保險の各代理店をも營み仕入は東京塚本商店小泉合名會社村田商店、大阪田村駒商店野呂克商店其他より六十日乃至九十日内外勘定を以てし之を町内及近在に座賣八分出張賣二分内外の割合で卸小賣を營んでゐるが近時財界不況の爲め回收振稍々不良の模樣で目下代表社員中野康平氏先頭に立ち店員十名内外を使用し極力業況の進展と内容の充實を計つて居り年商二十萬圓内外であらう。

平上水道の叛逆者

◆平町の水道擴張工事起債認可も遠くはないと云ふ噂で誠に結構のことである。

◆捻一ッひねればお台所の炊事萬端に使用出來る水道は有難い。

◆清淨な上水道の水が全町民に配給され全町民を養つて夫れが軈て汚ない排水となつて市外に出されるのである。

◆申す迄もなく人間の生活に無くてはならぬものは水と日光と空氣とで最も多く使用されるのも水である。

◆此の水は非常に大切にせなくばならない貯水池から全町に配給される鐵管などには特に注意を要すべきである。

◆然も三萬町民の脈筋にも當る配水道程の水路の眞下を地中の國家の富を採掘する鑛業すらも嚴禁してゐるのに己れの利慾の爲めの大膽さには斷じて町民は許すべきではない。

◆彼等の不純の富は直ちに取つて以て何とかせねば虫が納まらないではないか。

◆調査の結果が萬一事實として現れた時に於て町當局が冷淡であり謀術に功妙なる時は町民大會を開催し斷●の一字を以て決解すべきである。

◆風、山雨を誘ひ暗雲將に急なるかな。

魁文堂

平町才槌小路五株式會社魁文堂(資本金七萬圓也内拂込金一萬七千五百圓)は元現社長堀喜一氏の個人經營に端を發し昭和三年十一月資本金四萬圓の平文具株式會社を合併して現會社と爲したもので文具雜誌及雜貨類の外昭和四年よりは國定教科書の特約店をも引受けるに至つたが設立以來の業績は概して順調を辿り七、八分の配當を持續して今日に及んでゐる而して主なる仕入先は國定教科書共同販賣會社、篠崎インキ製造會社、日本鉛筆製造會社、日本ノート學用品製[illegible]會社、服部紙店仙臺支店、利見商事會社、村瀬商店となつてをり月末六十日乃至九十日内外勘定で仕入れ同町及近在(國定教科書は石城郡内四十七校)を販路とし卸八分小賣二分内外の割合で現金、月末、又は六十日内外勘定で販賣し支拂回收共先づ普通に行なはれ社長堀氏指揮の下に常務二名店員五名を使用し保守的方針の下に年商六萬三千圓内外を計上してゐる。

オール界夜話

高岡唯一郎氏は其の多くは東京本郷區湯島御國町の別邸に加療し草野村には村長の椅子にもかけず助役任せであるが今度福島電鐵會社の社長に就任したとのことである◆本縣の夏秋蚕掃立豫想の第一回より二萬七千枚の大減少三十七萬八百十枚は第二回の豫想であるが此内譯は夏蚕三萬八千九百五十八枚普通秋蚕廿一萬五百七十六枚晩秋蚕十二萬一千二百七十六枚で繭價安により斯くは掃立調節が効を奏したとのことである◆三非の藤原炭坑か廢坑となつたので會計の良い炭坑として盛んに賣込んだ商人は非常な損害を受けることゝなるのではあるまいか平の商人よりも湯本の方がひどいらしい◆交通がよくなつて返つて營業が不振となるこ[illegible]つて平町の各端々の村落に接續町内は自動車の運轉中止方を其筋へ陳情することゝなつたが先づ是等は當底問題となるまい去るにても商人と云ふものは色々と營業上に心を要することである◆不景氣で入湯人員が減少した平町の各錢湯屋も物價下落の今日の場合去一日から從來の四錢が三錢となる

女給數名募集します

四倉驛前

花月食堂

第廿壹期營業報告

昭和五年上半期

貸對照表

資産之部

未拂込資本金	三、七七五、〇〇〇、〇〇
線路屋内工作物	五四六、九三六、八〇
機械器具貯藏品及土地建物什器	一〇七、二二五、三八
假拂金	一六八、五八二、六九
有價證券	一七二、二八五、三四
受取形未收入金	二七、三〇三、四七
發電所勘定	一、五九五、一九八、〇三
變電所勘定	一四三、七七六、八九
預ケ金及現金	二六七、七七六、六五
化學工業部勘定	四七、六二一七
合計	六、七二六、六九八、〇三

負債之部

資本金	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇
諸積立金	一三七、一四一、〇〇
假受金	七、〇〇一、四〇
社債	二五〇、〇〇〇、〇〇
借入金	一、二三八、八二五、〇〇
支拂手形及未拂金	三〇、四八六、一二
未拂配當金	一、〇二三、九七
諸税金引當	四、八七九、五八
當期利益金	二七三、二三一、九六
合計	六、七二六、六九八、〇三

右之通候也

昭和五年七月

植田水電株式會社